

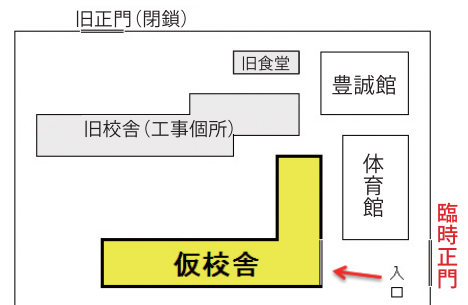


## Topics

同窓会サロンの模様「仮校舎へようこそ」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3  
 同窓生の話題 杉村健太郎さん(高校6回)「82歳過ぎても自分の足で歩きたい」・4～5  
                   小日向恵美子さん(高校19回)「東日本大震災から八年たって」・・・・・・ 6  
 豊島会の話題 「助かる命を助けられる国に」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7  
 生徒の活躍「科学部生徒受賞」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

# 6月2日(日) 同窓会 年に一度 総会・親睦会

第4回総会を開催します(詳しくは11ページ)  
 ☆2019年6月2日(日)  
 総会11時30分・親睦会13時より 豊島高校仮校舎にて(右図参照)  
 ☆同封のハガキにて出欠をお知らせ下さい(親睦会は当日受付も可)  
 ☆親睦会参加費1,000円(軽食あり)  
 但し卒業2016年3月卒業以降の会員は無料!



ホームページもご覧ください  
 柏豊会の最新情報を発信しております。

<http://www.hakuhou.biz>

お問い合わせはmember@hakuhou.biz



「対話」

柏豊会会長  
鈴木(豊田)優子  
(高校14回)



したが入学希望者も1.5倍の倍率となりました。

会員の皆様には益々お元気で活躍の事とお慶び申し上げます。今年度は東日本大震災から8年、8年目にして初めて明かされたヘリ救助の実情”あの日の星空”への思い、原発事故で浪江町は3/4の山間部に入り禁止等まだまだ厳しい現実があり五万余の被災の皆様は心よりお見舞申しあげますと共に小さな支援ではありますが続けさせて頂きたいと思ひます。

今年も3月9日めでたく71回生275名が晴々と卒業されました。式典は厳粛に又明るく行われ一人一人の生徒名を呼ぶ中、あるクラスは”はい”ではなく、”よっしゃ”等の返事があり笑いを誘い和やかな雰囲気になりました。退場の時、クラス毎に一列に並んでいる生徒達が一斉に振り向き”有難うございました”と全員大声での感謝の言葉に大きな拍手がおこりました。

先生方にはスタディラボ、理数サポート、科学部の活動等に3年間大変なご努力と真剣なご指導頂き今年も国公立、有名校の高い合格率になりました。今年度は仮校舎等で心配

学校の近況から

豊島高校校長 大山敏  
(さとし)



柏豊会の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より本校の教育活動に種々ご高配を賜り、誠にありがとうございます。

向こう4年間にわたる大規模改修工事ですが、昨年8月に仮校舎への移転を終え、生徒はすでに、2学期から始まった9か月を、東日本震災後の仮設住宅から部材転用して組み立てられた仮の住まいで学校生活を送っているところです。かなり老朽化していた旧校舎に比べると生徒の評判は上々で、高い天井、広いトイレ、倉庫以外は生徒会室に至るまで全館冷暖房エレベーター付きのこの校舎は、午後西日の当たる3階1年生の各教室が想像もできぬほど暑くなること、隣や上下の教室の音が筒抜けになる壁の薄さを除けば、快適なのかもしれません。使えるグラウンドがほとんどない現状にも、隣の旧豊島区立第十中学校校庭やテニスコートを借りたり、近隣の公私立学校のグラウンドや公園を使ったりなどして対応しています。昨年9月の文化祭も「仮校舎へようこそ」というやや自虐的な開催テーマにもか

かわらず、多くの人出でにぎわい、生徒も張り切って活動していたようです。

心配されたのは、ほぼ卒業式まで新校舎に入れないのに、このような状況の本校にどれだけの入学希望者がいるのかどうかでした。しかし、昨年度に比べると、仮校舎を見学してもらえただけ親子で見通しが立つたせいか、ふたを開けてみれば昨年度より多い延べ4千名以上が本校を訪れ、入学者選抜の倍率も1.5倍を確保することができました。総務部をはじめとした教員の宣伝の努力のおかげです。

さて、学力向上です。今年度から国数英3教科全てに少人数・習熟度別授業を採用しました。また、来年度第2学年から1クラス、難関大進学希望に対応するクラスを設置することとしました。さらに、新学習指導要領への移行措置が始まり、新たに「総合的な探究の時間」が始まったことに対応し、新しい部活動として「進路探究同好会」をつくりました。大学と連携して多くの大学の先生や学生が生徒の進路意識を一段も二段も高めてくれる仕組みづくりを進めていく所存です。

同窓会の皆様のご支援に今年度も期待いたします。



仮校舎へようこそ

タイトルの通り、2018年9月に開催された文化祭は、仮校舎となり初めて「豊島祭」となりました。当日、学校に足を運んだ同窓生もいらつしやるかもしれませんが、当日の模様をお伝えします。

仮校舎になり、入口はそれまでの正門とは異なり、東側の体育館脇に臨時の正門が設けられ、千川駅からのほう近くになりました。校舎に入ると、初代校長の野間忠雄先生の胸像が迎えてくれます。それまでは、大会議室の奥にあり、あまり日の目を見ることがなかった。野間先生も生徒や皆さんをいち早く出迎えられるこの場所を気に入っているのではありません。



同窓会サロン



今回、のぼりを新調しました!

その立地条件から大勢の方が来場されました。

同窓会サロンの中は、同窓会にまつわる写真の展示や今回は尾崎三重さん(昭和25年卒)より寄贈して頂いたアルバムも陳列。アルバムは主に尾崎さんがソフトテニス時代に活躍された写真が中心で、初代の木造校舎の模様や、遠征試合の写真もあり、懐かしい風景に、来場者の方は興味深くページをめくっておられました。

会場内の中央には、テーブルと椅子も配置。お茶やお菓子も提供し、さながら休憩所となり、保護者などの来場者に交じって生徒が束の間、の来場者を取っていく姿も見られました。仮校舎の開催ということでしたが、各クラスの出し物は例年と変わらなず、焼きそばなどの屋台の他、今回は、徒かお化け屋敷の出し物が多く、生徒の活気に溢れておりました。部活動の出し物も、例年大人気の吹奏楽部の演奏をはじめ、演劇部、茶道部なども大盛況でした。

今年も仮校舎での開催となります。この仮校舎での母校は限定が、逆にこの仮校舎での母校は限定が、逆になりますので、ぜひ足をお運び頂ければと思います。ぜひ足をお運び文化祭の開会式です。なお、今年のは、柏豊会ホームページなどでお知らせ致します。

- 部活動の活躍 -

運動系

- 女子硬式テニス部
- 男子硬式テニス部
- ソフトテニス部
- 陸上部
- 卓球部
- 軟式野球部
- ソフトボール部
- バドミントン部
- 女子バスケットボール部
- 男子バスケットボール部
- 女子バレーボール部
- 男子バレーボール部
- サッカー部

硬式テニスは、一生楽しめるスポーツです。日々技術向上のために練習に打ち込んでいます。アザレア杯の上位が目標です。毎日練習に励み、個人・団体戦ともに大会上位入賞を目指して頑張っています。

ソフトテニスは初めての人でも充分楽しめる競技です。今年も10名以上の新入部員がありました。校舎の改築にともない今後は近くの公立中、都立、私立の高校で練習する機会も多くなります。部の「和」を大切に、向上心をもって日々トレーニングに励んでいます。競技会にも積極的に参加し、自己記録の更新、都大会への進出を目指しています。

前向きにお互い励まし合い、公式戦に向けて、向上心を持ち、日々地道に練習しています。H27 秋季関東大会ベスト8、H28 春季・秋季都大会ベスト16、H29 春季・秋季都大会ベスト16 H29 総体予選都大会進出 公立選手権大会 公立新人戦ともにベスト16 「何事にも必死に取り組み、ソフトボールを楽しむ！」をモットー H29 年度新人戦Ⅰ部大会男子ダブルス決勝大会進出 新人戦Ⅱ部大会男子団体ベスト8 新人戦Ⅱ部大会男子ダブルス優勝 各大会上位成績を目指して頑張っています。

昨年度、関東大会予選、総体予選で東京都ベスト3 2。「ひたむきに頑張ろう」を合言葉に練習に励んでいます。昨年度、総体予選東京都ベスト64。目標は公式戦ベスト32以上、都大会出場。チームスタイルは「全員DF・fast break」。すべてにChallenge!

関東大会予選・インターハイ予選・新人大会東京都ベスト32、国公立大会東京都ベスト16、春季リーグ戦優勝。総勢31名で活動しています。部員の多くは高校からバレーを始めました。昨年度はウィンターカップで準優勝。今年度は都立高校大会ベスト8を目指します。

全国高校サッカー選手権大会ベスト8、部員の第一志望合格、誰からも応援されるチームになる、ことを目標に日々活動。高体連の大会の他にも地区トップリング、DUOリーグに出場。



文化系

- 吹奏楽部
- 料理研究部
- 茶道部
- パソコン部
- マジック部
- 演劇部
- 美術部
- 科学部
- 漫画・イラスト同好会

東京都高等学校吹奏楽コンクールA・B組金賞。日本管楽合奏コンテスト全国大会優秀賞。週1回、お菓子や料理を作っています。文化祭では焼き菓子とタピオカドリンクを販売し、大盛況でした。大日本茶道学会。東京大茶会、高文連中央茶会にて点前披露。校内での茶会も実施しています。豊島祭に向けてゲームの制作や動画の編集を週3回行っています。

舞台祭、豊島祭、学校説明会、同窓会親睦会などでトランプマジックやコインマジックを発表しています。舞台祭、文化祭、地区大会、睦月(如月)公演、新入生歓迎公演、新人公演など舞台発表しています。展覧会に向けて絵や立体を製作しています。文化祭ではトンボ玉やレンジアクセサリーを販売します。日本学生科学賞努力賞。ジュニア農芸化学会全国2位。科学の甲子園実技部門都3位。部誌作成。個人実験、施設訪問あり。

仲間と楽しく漫画やイラストを描き、部誌を作っています。

今回は『2019年 学校案内』より転載しました。(記事使用許諾済)

82歳過ぎて  
自分の足で歩きたい



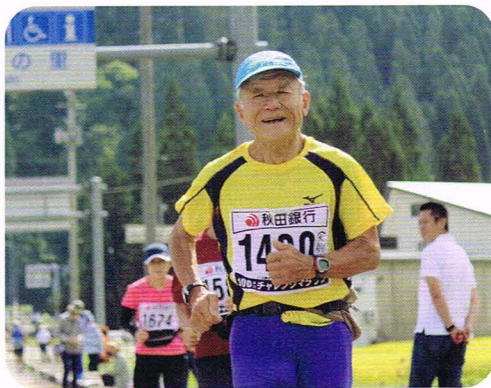
杉村健太郎  
高校 6 回  
昭和 29 年卒業

定年退職後は穏やかに生活し、健康でありたいと願う。自分と家族の心身が元気で過ごせるのが最高。高校生時代には、勉強も運動も自信が無かった。いつかこの状態を超えたいと思いつながら年齢を重ねた。  
H12年に秋田県大館市のDOWAホールディングスの子会社で定年退職した。今後どうやって生活するか考える間も無く、秋田県大館市の職能短大から電子技術科を担当してくれないかと誘われた。時間給のため収入は不安定かつ十分ではなかった。フルに働く先を探し、2年後によく生活できるだけの収入を得ることができた。収入も安定したのと、家族もなんとか良い状態だったので、大館市と千葉を往復することにした。平均寿命を超えると、健康寿命と向き合うことになる。成人病にならず、自分の足で歩き、認知症にならず、自分のことは自分でやる。  
**マラソンをやってみよう**  
収入も安定したので、ゴルフを続けるか迷ったが、一人で長く続けられるスポーツを探した。友人のすすめもあって、試しにマラソンをやってみることに。平成14年66歳でいきなりA級の秋田100kmマラソン大会にエントリーした。



「秋田100kmマラソンに賭ける」著書写真

スタートできたというものの、ひどい筋肉痛になり、阿仁前田を過ぎた75kmのキロポストに座り込んだ。10時間25分走って時間切れリタイアだった。だがマラソンはおもしろいと思いつつ、その後フルマラソン(42.195km)、ウルトラマラソン(フル以上の距離ラン)を目指した。  
67歳からは秋田100km大会を78歳まで10回完走できた。日本中にA級100km大会を78歳で完走した人はいないだろうと自負している。  
69歳のとき練習として、陸上競技の3000m、800ランもしようと考え、全日本マスターズ陸上競技連盟にも登録した。  
**アスリートは**  
**やる気の継続と障害の克服**  
アスリートとは定義がたくさんあるが、筆者は「競技会を目指し、かつ目標タイムを自己設定している」ことを目指すスポーツマンと解釈し



80歳の時、100km大会の50km地点通過。参加者中最高齢賞だったが、60kmでリタイア

ている。アスリートには、スーパー・アスリート(オリンピック級)、エリート・アスリート(全日本級)、ノーマル・アスリート(大会を目指す)、健康志向スポーツマンがあると思う。最も健康に良いのは、健康志向スポーツマンであることはわかっている。走ることは健康のために始めたが、すぐに、もっと上を目指したくなつた。ジョギングではあきたらなくなり、アスリートを目指した。高い目標を設定したため、予想しなかった身体の障害に向き合うことに。毎年なんらかの外傷性障害を発症した。

ランナーは、膝関節症、腰痛、足底腱膜炎、アキレス腱、シンスプリント、足根炎、等典型的なランナー障害が発症する。それでも、ランを続ける必要があるのか。もっと気楽にすべきかと思悩んだ。走っているうちに、成人病は防止できそうだが、外傷は増加することに気付いた。健康診断項目は異常なしになった。だが外傷が増加した。これまでに、

家の事と練習を  
両立させたい

変形性膝関節症で膝に「水」が溜まり、腰椎症、足根炎(足首故障)、等を発症した。大会を目指さず、ゆっくりジョギングしていれば、これらの外傷疾患にはならない。アスリートであり続けるのは、一種の生きがいとなる。だが外傷性の障害が多発する。生きがい障害か。  
75歳ぐらいになると、同年輩のがんばりを見ると勇気をもらえると聞いた。彼らに勇気を与える「星」になろうと決意している。

H 30年の猛暑と障害での  
練習はきつかった

高レベルのランを続けるのはたやすいことではない。家の仕事をしながらその合間にできるスポーツをしないと生きてきた。家の掃除、毎日の分別ごみ捨て、庭の草取り、自治会の仕事。それに、ランニングウェア等自分の衣類の洗濯。アスリート向け食事の自炊。これらをきちんと実行するためには、どうしても、外出・会合は控えざるを得なかった。

3月の全日本公認の佐倉朝日フル・マラソンは好結果で完走できた。これに気を良くして練習続行。だが5月末に右足首に突然足根洞炎を発症した。痛みはあったが生活に支障が出ないようにした。整形外科、接骨院に計42回通院。6カ月で全治癒した。家のこと通院等のため時間がとれたのは、いつも午前11時〜14時だった。この夏は猛暑のため、気温が32℃を超えると、高齢者は外に出るな、クーラーかけて、室内にじっとしていろと、TVで警告する日が続いた。この警告に従っていれば、ラ

ン練習時間はない。この30℃〜35℃の環境でほぼ週4回各約2時間ランを続けた。

**若いマラソン仲間との楽しい練習**

時間を作り西武線の所沢の若い仲間とラン練習をしている。千葉から所沢まで片道2時間30分電車に乗るのは辛いが、仲間励まされての練習は楽しい。

**フルマラソンで**

**全日本ランキング2位**



H26年78歳で100kmゴール者。12時間55分34秒で、完走は最高齢記録。この大会の最高齢記録。未だ破られていない。

定年退職後、この15年は、ほぼ毎年1回は大会に参加し完走している。H30年は3月の全日本公認の「佐倉マラソン」に5回目の参加。何とか5時間を切れた。表彰は無かったが、80歳以上では1位だっただろう。この記録は37万人参加の全日本マラソンランキングにリンクしている。1歳ごとのため「82歳の部」に記録されている。2017年は8位だった。2018年は初めて全日本マラソンランキングは2位になった。

**ラーメンを食べたい...**

体重はBMI20.5以下にする。最もだめなのは、間食と食べ過ぎ。塩分過多は高血圧症を発症する。2

年前血圧が180/90になり降圧剤を薦められた。塩分2g、食を3食。その他2gで計8g、日を実行して2か月で正常血圧になった。塩分濃厚であるラーメンはマラソンを始めからは10年前に1回食べたのみで、インスタントラーメンも食べていない。

**戦中・戦後少年期の苦難**

昭和19年7月、中野の谷戸小学3年生から、塩山の恵林寺に「学童疎開」させられた。この疎開中4年生の昭和20年8月に、恵林寺で太平洋戦争終結の玉音放送を聞いた。その後大病をしたため、そのまま母親と兄弟のみで塩山に残った。戦後の混乱期で単身赴任の父が不在の生活は悲惨だった。その後父の勤務先の大阪に移ったが、1年もたないうちに父が亡くなった。東京に移り、北区の王子中学から豊島高校に入學。母親も病気になる寝たきりになった。高校2年から、高校卒業後も生活費のためアルバイトが続いた。

**豊島高校在学中の思い出と生活**

父が亡くなり、母も寝たきりになったため、勉強をする気が湧いてこなかった。学力は全く向上しなかった。運動は、身体が小さかったこともあり、得意なもの皆無。水泳は得意だったがブルも無く、力を発揮できなかった。走ることは好きだった。横隔膜が痛くなり、まともに走れなかつた。柔道、蹴球(サッカー)



田沢湖SKI場にて杉村。2年の時の菅平SKIがきっかけで、全日本公認のSKI指導員になった。

カー)、卓球、庭球(テニス)等やったが、全てものにならなかった。2年生の時学校から菅平へスキーに連れて行ってもらった。初めてのスキーは新鮮で、本当に楽しかった。ミーティングの前の自由時間に、暗くなるまで一人で道路で滑った。これがきっかけで、その後現在までスキーを続けることに。

3年になって家庭の困窮状態のためますますアルバイトせざるを得なくなつた。勉強も運動もする意欲がわかず、ビリ状態でも自信が持てない日々。どうやって生きていくか真剣に思い悩んだ。ただし、身長だけは3年間で24cmも伸びた。上野・御徒町でバツジ製作の会社でアルバイトした。そこで自転車配達中、商品受取りの待ち時間に、新潮文庫を読んでいた。「あんちゃん、そんな小さな字の難しそうな本を読めるのだ、すごい」と声をかけられた文字になじみのない人々がいる世界があるのか。軽いカルチャーショックを感じた。このままでは、この「世界」の人になり、抜け出せないと思ひ始めた。

**自分に自信を持つための決断とその後**

卒業1年後に、叔父から勉強するチャンスをもたらした。進学するならば「帝国大学」に行けとの命令・アドバイス。そのため東京大学理科一類を目標にした。

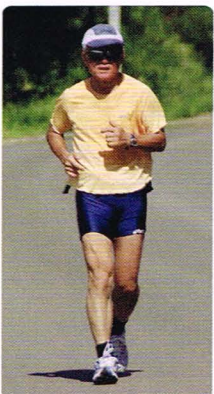
「新潮文庫」レベルからいきなり東大はきつかった。当時は、「浪人生が大半を占めていた時代」だったので、少しは気が楽だった。仕事をやめて、1日14時間勉強して20歳で京都大学工学部に合格した。担任の松

原(まつきゆう)先生、家族、友人を驚ろかせ、喜ばせた。やればできる、との自信が湧いた。大学入学時には身体は高校生の時より一回り大きくなり、身体能力も高くなつていた。入学後はスポーツとして体育会のスキー競技部で、経験のないクロスカントリースキーをした。卒業後は同和鋳業(現DOW Aホールディングス)に定年退職するまで勤務した。社会人になってから、全日本スキー連盟公認のアルペンスキー指導員、公認のクロスカントリースキー指導員の資格をいただいた。現在も中高年スキーヤーに、毎年スキーレッスンをしている。

**「秋田100km マラソンに賭ける」を出版**

みじめだった高校生時の思いをいつか払拭しようと思つていた。定年後トップアスリートになるまでの努力・経緯を述べた。同年者の「星」になりたいたいと願っている。

平成14年の秋田100km大会初参加から毎年の参加記を秋田県大館市の「北鹿新聞社」に投稿し続けた。15年間の全投稿記を編集、加筆してH29年に、「秋田100kmマラソンに賭ける」の表題で出版した。書店では販売せず個人販売にした。連絡先は、043-2547606。千葉市若葉区都賀の台1-9-16またはメール sugimiken@live.ocn.ne.jp



秋田県釈迦池道。秋田県で仕事中。75歳頃真夏のラン、信号も、車もない。

震災から八年たって

小日向(河原) 恵美子

(高校19回・S42年卒)

昨年4月、岩手県大槌町赤浜の新しく建設された東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センターの玄関アプローチの天井画制作の為に2週間、世界的現代画家大小島真木さん(東久留米市在住)のサポーターで過ごした。毎日、ひょうたん島に見える海を眺めていると、海は穏やかで幸福感に包まれる。この海が、大津波と化したあの日は、同期の岡本英夫さんはじめ多くの方々が津波のため帰らぬ人となった。その年の7月、いてもたってもいられず大槌町を訪ねた。釜石からの三陸鉄道(当時はJR山田線)大槌駅は、無残にも瓦礫となった。当時、鉄道の復興はないとお話だった。ところが、今年3月23日、鉄道が開通。私は、その日を心待ちしていた。開通の翌日三陸鉄道に乗車することができた。



大小島真木さんの天井画



全線開通した三陸鉄道と筆者



岡本英夫さんの奥様と新築された岡本邸の庭の前でひょうたん島を臨む

今年2月10日(日)第7回おすれまいその日コンサート&和合亮一朗読会は、福島県に思いをよせて・第1回の時と同じ来場者で満席となった。

元気です！居駒永美先生



オカリナを吹く居駒先生

母校の体育科の教師として昭和43年から平成7年まで四半世紀に亘り在籍され、多くの豊島生の教え子を持つ居駒永美先生。退職後は詩吟と出会い、錦城流の総教師範にもなられたそうで、その美声は平成23年に開催された柏豊会70周年記念式典でも披露して頂いたもので、記憶に新しい同窓生も多いのではないのでしょうか？  
現在も総教師範として詩吟のレッスンをしており、最高齢は97歳の方から40代の方まで幅広い門下生がいるとのこと。3人の師範も誕生したそうです。レッスンは月2回、ご自宅近くの練馬区石神井台みどり地域集会所にて行っておりますので、興味のある方はぜひ門を叩いてみては？  
そして、最近詩吟以外にも、歌を歌うサークル活動もしているそうです。「池の会」というその会は月曜日から木曜までの朝7時から三宝寺池のほとり(石神井松の風文化公園脇の階段下)で皆さんと歌っているそうです。「朝から歌う」とても気持ち良く元気が出ますよ」と居駒先生。20年続けているそうです。いつでもお元気で活躍してください。詩吟の会も歌のサークルも部員募集中です。居駒先生連絡先はこちら(携帯) 080-1541517103

高校 14 回

2020 会えたらいいな



豊島十四会(昭和37年卒)  
同期会はオリンピックイヤー!!  
来年開催  
詳細は来年の会報にてお知らせします。  
幹事: 落合光太郎・鈴木(豊田) 優子

千早会Ⅲ(高女9回、高校2回) 開催のお知らせ

今年は5月15日(水)です。  
(5月第3水曜日)  
池袋ホテルメトロポリタン2階「花むさし」午後1時30分からこの写真は昨年です。37名の出席でした。  
今年も沢山お集まり下さい。  
花崎先生もご出席です。  
幹事: 尾崎 三重  
090-4615-1974  
花形由紀子



## 特別講演会「ハート to ハート」開催

### 『助かる命を助けられる国に』

毎年、柏豊会では一般財団法人 豊島会と共催し、文化祭の中で日大病院の瀬在明先生をお招きし、特別講演会「ハート to ハート」を開催しています。昨年は、いつもの「同窓会サロン」での会場を飛び出し、練馬文化センターにて母校の舞台祭に合わせて行われました。講演を聞いた母校生徒から感動したと絶賛であった講演会の内容について、瀬在先生から寄稿して頂きました。講演会に足を運べなかった皆さんもぜひこちらをお読みください。



日本大学  
医学部付属板橋病院  
心臓外科 瀬在 明

日本は1997年に臓器移植法が制定され、脳死からの臓器移植が可能になりました。しかしその法律は小児の移植はできない、臓器提供意思表示カードで意思表示している人は国民の1%程度の状況から、移植はできない法律と感じました。当然、臓器移植は進まず、心臓移植に関しては年間で0~数例しか行われていませんでした。海外への渡航移植が報道されますが、数億円のコスト、渡航後にお亡くなりになる患者さんもおり、さらに海外で提供される臓器が余っているのであれば問題ありませんが、海外でもドナー不足は深刻です。法案制定後5年後に改定予定でしたが、行われず、その中でWHOから『臓器移植は自国で』という勧告が出ました。実際に国名は示されませんが、それは日本に向けた勧告でした。そこで、ようやく2009年に臓器移植法が改正され、小児の移植も可能になり、本人の意思確認ができない場合は家族の同意で可能という欧米なみのものになりました。しかし、まだ移植医療は進まず、その何十倍も臓

器移植が必要な患者さんが待機しており、移植できず、亡くられる方が多くいます。なぜ、日本は臓器移植が進まないか?の議論の際、宗教の問題ということもいわれます。しかし、日本人の多くが無宗教で、仏教国でも日本以上に移植が行われています。私はドイツで移植医療の現場を経験し、帰国後、ドイツで心臓移植を教えて頂いた南和友医師とハート to ハートというNPO団体を立ち上げ (<http://www.heart2heart-npo.jp>)、市民公開講座などを行い、移植医療について多くの方々と交流をしてきました。その中で教育現場での移植に関する教育が最も重要と感じています。教育現場で死に対する教育はタブーとされています。しかし、命の大切さを教育するのが教育現場であると思います。また家庭内で話し合いもありません。欧米では教育現場で指導され、家庭内での話し合いが一般的です。幸い、都立豊島高校同窓会『柏豊会』会長の鈴木様などのご尽力で10年前から都立豊島高校の文化祭、昨年からは論議大会の前日に学生さんの前で臓器移植について講演する機会を頂き、移植医療について話すことができ、大変感謝しております。講演中の学生さんたちの目はとても真剣で、教育現場できちんと移植医療について理解してもらうことで日本の移植医療の未来は明るいと感じさせていただきました。

日本が早く『助かる命を助けられる国に』になるよう、ぜひ、ご家族、お友達で一度話し合ってみてください。

[広告]

第13回 豊島会フェスティバル  
日本の伝統芸 **講談を楽しむ!**

神田陽子 秋色桜  
神田陽子 秋色桜  
講談チャレンジコーナー「皆さんもやってみませんか」

仲入り  
**女たちの忠臣蔵**  
**神田 陽子**

2019年2月24日(日)

日本の伝統芸  
**あやつり人形**  
豊島会フェスティバル

入場無料

## ◆◆◆ 豊島会だより ◆◆◆

《豊島会》は、豊島高校と同窓会「柏豊会」を母体として発足し、現在は一般財団法人として、広く都民を対象とした事業を展開し、講演などの公益活動を「豊島会フェスティバル」として、継続開催しています。昨年度は、今回寄稿くださいました瀬在明先生の講演会とも一つ、最近人気急上昇中の日本の伝統芸「講談」を楽しむイベントを開催。おかげさまで100人以上の観客が集まる盛況となりました。

“豊島会フェスティバル”は今後とも継続して開催を予定していますので、同窓生の皆様もぜひ、お誘い合わせてご参加ください。

**予 告**

**豊島会フェスティバル・第14回**  
**2019年9月 開催!**

瀬在明先生の講演をぜひライブで!

《同窓会サロン》(柏豊会主催)  
も同時開催。講演時間ほか、詳しい情報はこちら ⇒⇒⇒

### 同期会だより

#### 高校9回(S32年卒) 同期会

平成30年11月13日  
於・池袋ホテルメトロポリタン

昭和33年3月、我ら同期生400名が卒業。そして今日まで以来60年余それぞれ違った道を歩みながら、その間に同期会を立ち上げ、これまで数年おきに開催、今日に至っている。

またこの会ではちよつと珍しく、同期生同士10人5組のカップルが誕生し、現在(イマ)も幸せそうに(何ともうらやましい限り!)。しかし、こんな我々の会も昨今、年相応にいろいろあり、今回の同期会開催にあつても主催する幹事が体調を崩したり、案内先の仲間からも十数人が体調不良との便りがあつたりして、80歳という歳を改めて感じさせられた。

そして更には、会当日にもアクシデントが。出席予定のメンバーの一人が会場への出席を「ど忘れ」し欠席(最近では時折ある)。また、別の一人は会場へ急ぐあまりホテルを目前に路上で転倒、救急車のお世話に。幸い大事に至らなかつた(後刻本人からの電話で確認)との事、幹事一同ホット!  
そんな突発的なこと等もあつたが、何はともあれ予定通り同期会が盛り上がる。今回も50名の出席が予定通り。毎度のことだが皆さんこの場に、元気に飲んで、食べて、喋る。大いに盛り上がる。そしてまた、今回も、あつと盛会の3時間、名残を惜しみつつ盛会の内に終わる。数十十年前、百人近い出席で賑々しくスタートした我が会も寄る年々には

逆らえないのか?先生方の御出席も既になく... (そろそろ年貢の?...)  
〔幹事・篠崎繁〕

#### 高校14回卒(豊島十四会) 同期会

平成30年6月3日  
於・豊島高校

豊島十四会(S37年卒)のミニ同期会は、柏豊会親睦会に合わせて行われ、お料理26名の方が集まり、お母校吹奏楽部の演奏などを楽しみました。

2020年のオリンピックには同期会を予定しており、ぜひお楽しみ。元気で、お会いしましょう。

#### 高校16回卒(三九会) 同期会

平成30年10月28日

定例になりました三九会の懇親会を池袋西口公園裏サン7Fで行い、22名の皆さんが参加されました。同期会でも約束した年一回の集まり、お互いの元気を確認し



あい、健康・活躍情報を交歓しあうものです。時の過ぎるのも忘れ、今回も楽しい時間を共有する事が出来ました。

新しい年号での集いは、10月26日土曜日17時から行います。場所は昨年と同じ西口「えん」。参加者は一週間前までにメール・LINEでご連絡下さい。  
yueogawa@ifty.com  
(三九会世話役 小川寛美)

#### 高校18回卒(S41年卒) 同期会

平成30年4月19日  
於・池袋ホテルメトロポリタン

古希祝い同期会

18回生の古希を祝う同期会は2018年4月19日(木)、池袋メトロポリタンの朝日間に朝日名が参加し賑やかに開催されました。2年前の「卒業50周年同期会」と同じ場所での開催です。長く上海に在住して、今海道北広島からの5組A君、岩手県雫石からの6組Hさんなど、全国遠方からも多くの同期会が参加されました。喜寿を祝う同期会は2025年となり、開きたいな、ねという声もあり、3回は開きたいな、ねという声もあり、す!



「2年目だし、そこまでは集まらないかな」と思っていたのですが... 120名が集合! さらに先生方は、

#### 高校38回卒(S61年卒) 同期会

平成30年6月2日  
於・ホテル椿山荘東京

30年ぶりに開催した一昨年の同期会で誓ったとおり、昨年も実施しました。今回は、同期生で椿山荘に勤める霜越くんの粋な計らいで、とても素晴らしい会にすることができました。一昨年の出席者数125に対し





一昨年に続いての吉澤先生、鈴木先生だけでなく、先輩の紹介を通じて居駒先生、大塚先生、黒山先生、中西先生、葦名先生が列席くださいました。居駒先生には詩吟の美声を披露いただきました。感謝、感謝です。豪華なパーティーで大いに盛り上がった後は、中庭で賞鑑賞も実施。さらに国際興業の路線バス車両を2台チャーターし、すし詰めの状態になりながら池袋まで移動、ひとときの遠足気分を味わいました。

そして「元気なうちに会っておくのがいいんじゃないか」となり、3年連続での実施も決定！10月13日(日)に開催、今年も盛り上がりましょう！  
〔幹事代表・須藤渉〕

**吹奏楽部 OB・OGの集い**  
平成30年11月25日(日)  
於 FICTION 池袋

吹奏楽部OB・OG会では、OB・OGの親睦と現役生の支援を柱とし、活動の再開を目指しています。このうち現役生の支援についてはOB・OG会でも口座を開設して寄付を募集し、昨年はハーモニイデレクタ(リズムや和音の練習に使用する電子機器)を贈る事ができました。ご協力頂いた皆様には、この場をお借りして御礼申し上げます。

一方で親睦活動の「OB・OGの集い」では、ご案内開始が開催日の直前となつてしましました。予定の合わなかつた方には申し訳なく思います。そのような状況なので、今回は参加者が自慢のお酒やお手製の料理を持参する等、ピクニック感覚の会となりました。参加人数は14名でもおり、「音楽活動を続けています」といった話があちらこちらで聞かれ

ました。また顧問の新井先生、後援会の方もご参加下さいましたので、現役生の支援等について意見交換を行うことができました。小さな会でしたが充実した時間を過ごす事ができました。今年11月にはOB・OGの集いを開催する事を恒例行事としたいと考えております。現役支援の寄付と合わせてweb上でもご案内致しますので、引き続きご協力をお願い致します。



https://toshimabrassobka:29.jimd.o.com/  
幹事一同

**豊籠会便り**

(バスケットボール部OB・OG会)

今年度のバスケット部OB・OG会の豊籠会総会・親睦会は池袋YRIイベントホールで3月9日に開催しました。総会では決算報告の定例議題が活

会長 大野克之

動報告と共に進行し、女子部員のユニホーム制作費援助や練習試合の審判派遣などが報告されました。また、今年度の予算案では女子部用の横断幕制作も、全て満場一致で承認されました。

親睦会は2人の子供さんと3か月の赤ちゃんを含まずとも総勢50人となり、鬼木先生、黒川先生もご出席いただいたので、その教え子が19名出席し、そして男女がほぼ同人数なほどにOGが多かつたのは前例がないことだと思えます。会場がそれほど広くなかつたのでスペースが確保出来ずに集合写真を撮ること出来ないう状況になったのは残念でした。2年前まではOB会としてOB主体の地味な感じでしたので、華やかで賑やかな会場の雰囲気には驚かされるほどです。

昭和30年卒業OB・OGの大先輩から平成23年卒業の若い会員まで親戚どころか孫世代の年齢差があるわけですが、僅か3年間、同じ高校でバスケット部に所属し、汗してボールを追いかけた経験が話題にひと時を過ごせるのは幸せな事だと思います。

今年特筆する事は「豊籠会の案内」を作成した事です。豊籠会総会に間に合わせるために急いで作成したもので、多少のミスもありますが何とか配布することが出来ました。

近年の部員のご父兄は部の活動に熱心で、公式戦、練習試合と会場での存在を生徒と共に知って頂いてご理解とご協力をいただきました。また、「豊籠会」として作成しました。また、「豊籠会」の歩み、「会員の活躍」などがあり、豊籠会会員の共通認識としての目的があります。

豊籠会の目的「会員の親睦、現役部員との結び付きと物心両面への援

助」を図るために、学校の環境・個人の価値観等が大きく変化する中で、OB・OG会の存続に努力を継続しております。今年のように総会・親睦会の参加者が増え、年会費(一口千円以上)も昨年の63名の方以上にご協力いただけそうなので感謝しております。

豊籠会は1953年に発足し、名簿上は約700名の卒業生が存在しますが、残念ながら「総会・親睦会」の案内が全てのOB・OGに出来てはいません。もともと住所がわからない方も、宛先不明になってしまつた方も、そして、平成15年〜25年卒業の方に関してはお名前もわからないので何も出ていません(少しはOGの方はわかるようになります)。是非、ご一報頂ければと思います。

来年も3月上旬に豊籠会を開催します。さらに多くの方に出席頂いて、共有出来ることを心待ちにしております。

【連絡先 大野】  
携帯電話 0800-467710071  
Eメール oo-no.0701k@outlook.jp

# 柏豊会からのお知らせ

## 総会の返信葉書につきまして

毎年、総会の返信葉書をご提出頂き、ありがとうございます。今年も総会の出欠に関わらずご提出願います。(欠席の場合は、議長委任もしくは議案の賛成・反対のチェックをお忘れなく)

## 「短信コーナー」新設

皆さんの学校の思い出や近況など短信を募集し、来年の会報に掲載する予定です。返信葉書の宛名面の下部のメッセージ欄にご記入頂いた中から、編集委員が選定し掲載します。なお、掲載希望の方はチェック欄に印をお願いします。(ない方は掲載しません)

## 振替用紙

### 同窓会費につきまして

同封の振替用紙は、「通信協力費」の送金用です。年会費や親睦会参加費等のものは異なります。なお、柏豊会の会費は、卒業時に入会金として終身会費として頂戴しており、年会費としての徴収はございません。

## 「通信協力費」ご協力

ありがとうございます！  
引き続きご協力お願いします！

日頃は柏豊会事業にご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございます。柏豊会では会の運営維持・会報の充実などに向け「通信協力費」を受付し、有効活用しています。昨年度もたくさんのご協力に深く御礼申し上げます。引き続きご協力をお願いします。

▼送金は同封の振替用紙をご利用ください。ゆうちょ銀行またはお近くの郵便局からどうぞ。払込書機能付きATMでもご利用いただけます。  
▼通信欄に卒業回・クラス(または宛名ラベルの印字コード)、依頼人欄の住所・氏名の記入をお忘れなく。  
▼振替用紙は毎年同封されます(一部の方は除く)。先の分まで送金済みの方は、お手数ですが、破棄してください。  
▼同期会などでまとめたの入金も可能です。通信欄で詳細をお知らせください。  
▼振替用紙以外でお振込みの場合は、左記の口座あてにお願いします。

### 送金口座 (ゆうちょ銀行振替口座番号)

00150-7-403846

※他銀行から振込みの際は、下記の店名・口座番号をご利用下さい。(同封の振込用紙は使用できません)

店名:〇一九店 店番:019 預金種目:当座預金  
口座番号:403846

### 加入者名 (受取人)

柏豊会(都立豊島高校同窓会)

- \*通信協力費として一口1,000円以上(千円単位)
- \*通信協力費は同窓生の任意で頂くもので、年会費や親睦会参加費等とは異なります。
- \*振替金の受領証をもって領収書に代えます。
- \*振替用紙上の個人情報、柏豊会で厳正に管理します。なお、用紙の保管は5年間とし、以後は裁断し破棄いたしますので、ご了承ください。

【物故者】平成30年4月から31年3月まで逝去の連絡を頂戴した旧職員・同窓生を掲載し、個人のご冥福をお祈り致します。(順不同・敬称略)

栗原(五嶋) 君江 (女7回)	大前健一 (高9回)
山中(竹割) 沙枝子 (女7回)	林年男 (高9回)
大野(今淵) 恵子 (女7回)	金子喜美江 (高10回)
甘泉(戸野) 真知子 (女7回)	家泉清 (高10回)
鶴岡(嵩) 純子 (女8回)	堀(板橋) 宣子 (高11回)
賀陽(伊藤) トリ (女8回)	岸川(赤松) 祥子 (高11回)
妹尾幸子 (女8回)	小西信毅 (高12回)
諸角(小笠原) 裕子 (女9回)	野原紀一 (高12回)
檜垣(山崎) 温子 (女9回)	滝隆夫 (高13回)
高田(山田) みどり (女9回)	佐藤司朗 (高14回)
阪中(高橋) 晶子 (高2回)	柳瀬常則 (高14回)
薩埵(岸田) 珠江 (高2回)	矢島捷喜 (高15回)
神山(喜多) 君枝 (高2回)	水谷(水谷) 綾子 (高15回)
水野(金子) 明子 (高3回)	服部光男 (高15回)
海老沢(大石) 美智子 (高3回)	池田良太 (高17回)
三輪(阿藤) 博子 (高3回)	池田良正 (高17回)
荻上(片岡) 淑子 (高4回)	水村和正 (高18回)
萩田(白坂) 弘子 (高4回)	山根正敏 (高18回)
伊賀玲二 (高5回)	小林(根本) 洋子 (高18回)
杉嘉純 (高5回)	鈴木道文 (高19回)
吉原(中村) 雅子 (高5回)	林哲生 (高26回)
山田幸江 (高5回)	竹内哲子 (高29回)
吉光寺(石井) 美代子 (高6回)	池田一美子 (高30回)
吉澤(長沢) 怜子 (高7回)	栗原武 (高32回)
吉野(北島) 了子 (高7回)	大槻文彦 (高37回)
吉田(藤沼) 奈美子 (高7回)	相沢賢一 (高43回)
山下(吉川) 波留恵 (高8回)	【会より】遅れて連絡を頂戴することもあり、過年度に逝去された方もおりますのでご了承ください。
渡辺彰二 (高8回)	
長沢(坂本) 明子 (高8回)	
木村尚 (高9回)	

## 教職員の異動 (順不同・敬称略)

着任▼北江繁治(副校長) 戸山高から▼永井充(国語) 小石川中等教育学校から▼山下悠哉(地歴) つばさ総合高から▼安齋遼平(地歴) 新規採用▼藤隆徳(数学) 小石川中等教育学校から▼岩崎克弥(保体) 日本橋高から▼桑原浩司(英語) 文京高から▼菅原敦之(英語) 千早高から▼城田美咲(音楽) 杉並総合高から▼黒田英子(情報) 新宿高から  
転任▼飛田丞(副校長) 戸山高へ▼濱上圭子(国語) 大泉桜高へ▼吉田洋子(地歴) 白鷗高へ▼兼近光明(数学) 石神井高へ▼緒方崇(保体) 久留米西高へ▼植場光平(英語) 国分寺高へ▼笠井修(英語) 大山高へ▼秋山紗綾香(情報) 文京高へ  
退職▼新井純子(音楽)▼阿部悠人(地歴) 仙台青陵中等教育学校へ《着任は4月1日付、転任・退職3月31日付です》

科学部生徒が大賞を受賞



部活動が盛んな母校であります。科学部において3年生(当時)の只木亮哉君が栄えある第62回日本学生科学賞の中央最終審査(全国大会)にて「入選一等」を受賞しました。テーマは「変化アサガオの光合成色素の研究」ということで、顧問の先生によると大学生の卒論レベルでもあるらしいんだか難しそうな研究について早速只木君にお話を伺ってみました。



と黄緑色の葉をもつ品種の違いに着目しました。なぜ、このような葉色の違いがでるのか研究を行い、その理由の一部を解明しました。「なぜこのテーマを選んだのか、きっかけはなんでしょか?」  
只木 元々、私の祖父が農家であった事もあり、人よりも、植物と触れ合いながら育ちました。日本生物学会のオリニピックに参加した際に、アサガオに関する問題に興味を持ちました。アサガオの花や葉を調べているうちに、葉の色の違いについて興味を惹かれ、研究を始めました。|率直に今回受賞された感想をお聞かせください。  
只木 環境、運にとっても恵まれていた、という事です。研究の実験器具、資料があった事、優れた師に指導していただいた事、家族や友人に支援していただいた事、実験にて結果が出た事、それら全てが揃って初めて成し得た結果であり、その事について、感謝しても仕切れないという思いです。

また、自身の研究が認められた証である本賞は、高校生活を費やした本研究の結晶であり、私の誇りだと思っております。  
|将来はやはり科学者を目指しているのでしょうか?将来の夢をお聞かせください。  
只木 本研究では、松島、黄葉という品種の葉が黄緑色になる原因を突き止めましたが、萌黄という品種については全くわかっていません。その為、これらのまだ未解明の問題について研究し、原因を明らかにするというのが今の夢です。  
また、ノーベル賞受賞者である、大隅良典先生にお会いする機会があり、大隅良典先生の研究分野であるオートファジーというものに興味を惹かれました。特に植物のオートファジーは未解明の部分が多く、私が研究していたアサガオにも関わりがあると考えており、それについても探究をしていきたいと考えています。

**柏 豊 64 号**  
2019年5月1日発行  
© 柏豊会 2019 / 本誌は非売品です  
**【注意】掲載情報の二次利用及び本誌の転載・複製等を厳禁します**  
制作・著作 柏 豊 会  
(第十高女・豊島高校同窓会)  
〒171-0044 東京都豊島区千早4-9-21 豊島高校内  
会長 鈴木 優 子  
TEL 090-4228-8758 FAX 03-3972-4037  
印刷 同窓会事務局  
《会報編集委員》  
木村 太一 綿貫 昌子  
小泉 恭昭 森 平 正 淳子  
豊島 宏之 大 平 正 涉  
小川 寛美 須 藤 一 明  
野 木 淳 赤 坂 保

**編集後記**  
◆平成から新元号令和になりました。豊島高校も平成とともにそれまでの二代目校舎に別れを告げるかのように取り壊しが開始。この校舎で学んだ私としては少々寂しい気持ちですが、三代目校舎への足掛かりとして仮校舎への引越しも終わり、生徒達も落ち着いたようで、着実に新しいステップへと歩み始めました。令和の豊島高校にも乞うご期待です。  
◆4ページの杉村健太郎さんは、昨年たまたま総会の日にも母校を通り掛かり、そのまま総会にもご出席。それがご縁で今回の記事を執筆して頂くことに。82歳を過ぎてランナーとして活躍される姿に感動を覚えました。また、6ページの居駒永美先生も退職後に詩吟と出会い、活躍の場を拡げていらつしやいます。先輩や恩師のお元氣な姿に励まされるとともに、豊島生として頑張らなくてはと思いました。